

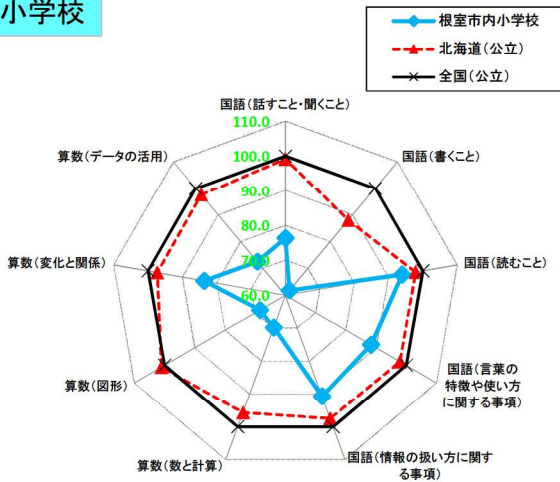
■根室市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:133人）（中学校数:6校、生徒数:156人）

【教科全体の状況】

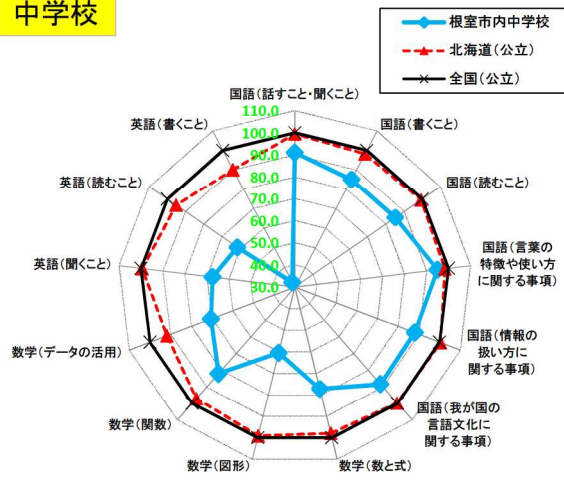
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	62
算数・数学	46	38
英語	-	27

小学校

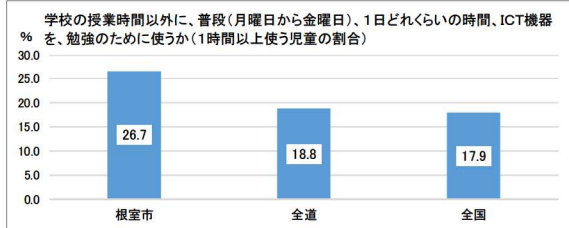
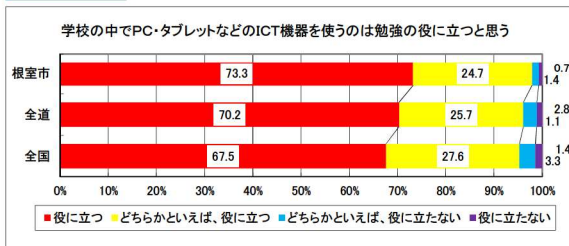


中学校

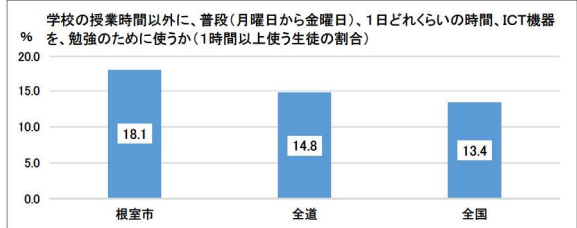
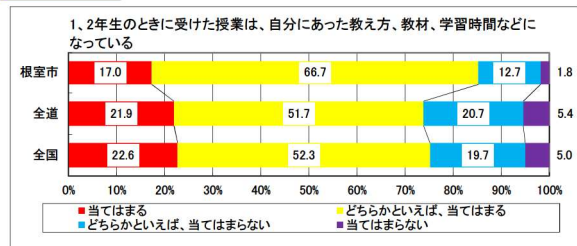


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

「学力向上プロジェクト推進会議」や「授業改善推進チーム活用事業」の取組を行い、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、ICT機器活用の有用性についての理解が深まり、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を持ち帰らせ、家庭学習で使用させたことにより、ICT機器活用の有用性についての理解が深まり、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために1日あたり1時間以上使うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

「学力向上プロジェクト推進会議」の取組を行い、生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用させたことにより、ICT機器活用の有用性についての理解が深まり、1、2年生の時受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を持ち帰らせ、家庭学習で使用させたことにより、ICT機器活用の有用性についての理解が深まり、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、PC・タブレットなどのICT機器を1日あたり1時間以上使うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【根室市の学力向上策】

- ◎ 管理職・教諭・教育委員会で組織する「学力向上プロジェクト推進会議」等による指導方法の工夫・充実
- ◎ 市内教職員による「根室市学校連携教育研究会」を通した幼保小中高の連携強化
- ◎ 学校でも家庭でもICT機器を活用して学びを深める体制整備

【Webページ】



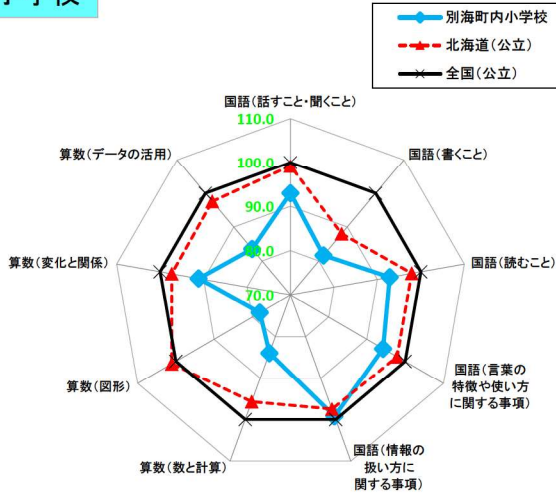
■別海町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:124人）（中学校数:8校、生徒数:132人）

【教科全体の状況】

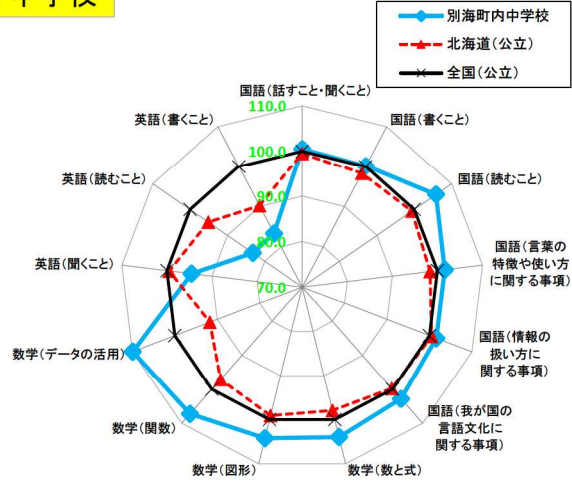
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	71
算数・数学	53	54
英語	-	40

小学校

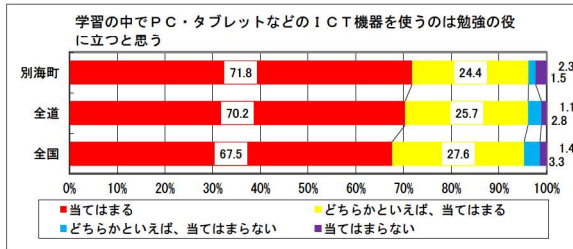
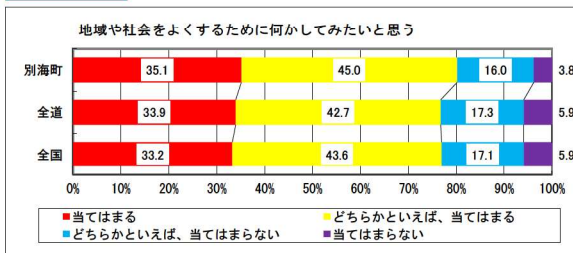


中学校

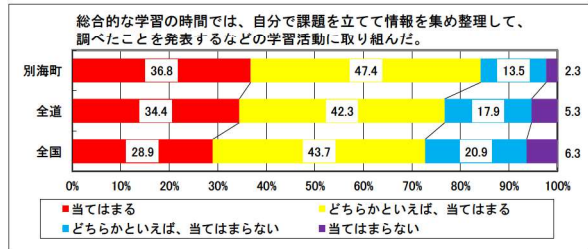
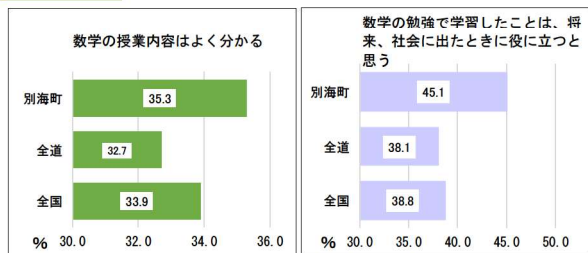


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

総合的な学習の時間の「ふるさとキャリア教育」の時間において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現させるなどの指導をしたことにより、地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童同士がやりとりをする場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、意図的・計画的に使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かる、数学の勉強で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域において平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたことにより、総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【別海町の学力向上策】

- ◎ 新聞を活用した教育活動や読書活動の推進など、総合的な読解力向上に向けた取組の推進
- ◎ 各地区で推進してきた「コミュニティ・スクール」の促進及び「ふるさとキャリア教育」の充実
- ◎ 授業や家庭学習の場面における1人1台端末の効果的活用等、「別海版GIGAスクール構想」の実現

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

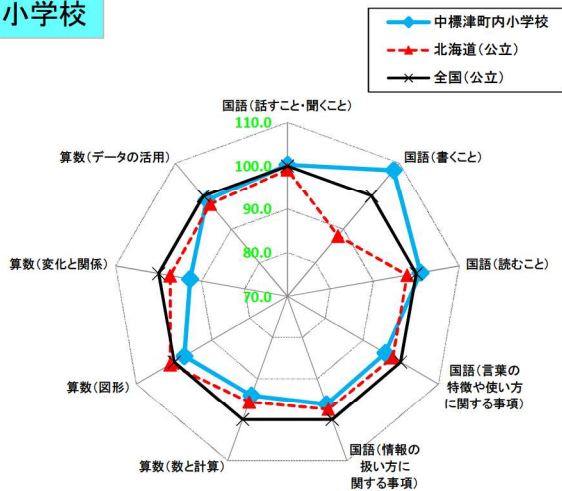
■中標津町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:191人）（中学校数:3校、生徒数:185人）

【教科全体の状況】

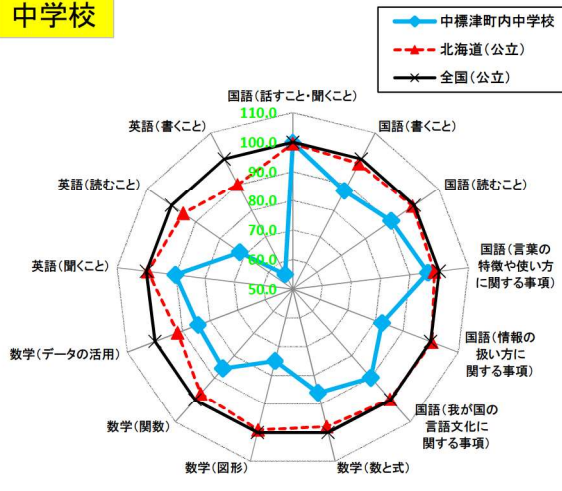
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	65
算数・数学	59	43
英語	-	35

小学校

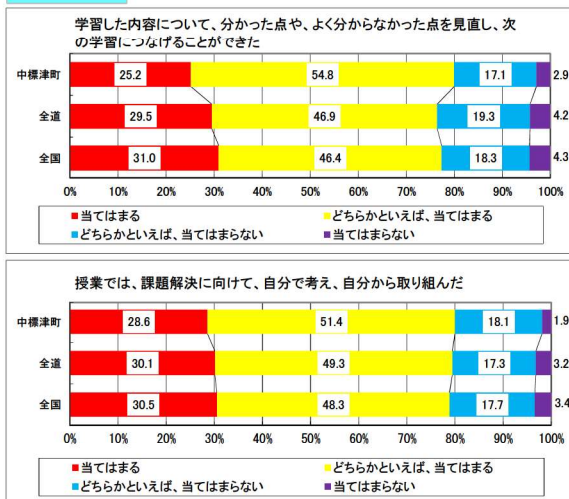


中学校

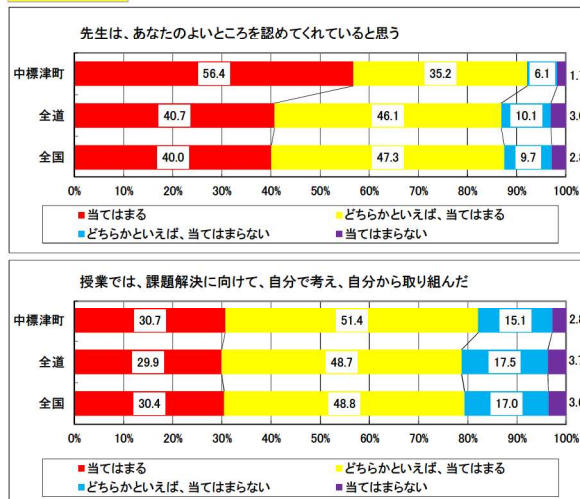


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「中標津学校改善支援プラン」に基づく授業改善を推進したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。  
各中学校区において、「教育目標」の実現に向けた小・中学校の接続を重視した授業研究など、合同で研修会を行ったことにより、授業改善が図られ、授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「中標津学校改善支援プラン」における生徒の居場所づくりの観点から、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。  
各中学校区において、「教育目標」の実現に向けた小・中学校の接続を重視した授業研究など、合同で研修会を行ったことにより、授業改善が図られ、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中標津町の学力向上策】

- ◎ 各中学校区の「教育目標」の実現に向けた小・中学校の接続を重視した系統的な教育活動の推進
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「中標津学校改善支援プラン」に基づく授業改善の推進
- ◎ ICTを日常的・効果的に活用した家庭学習の実現に向けた家庭への端末の持ち帰りの段階的な拡充

【Webページ】



(R6.1掲載予定)

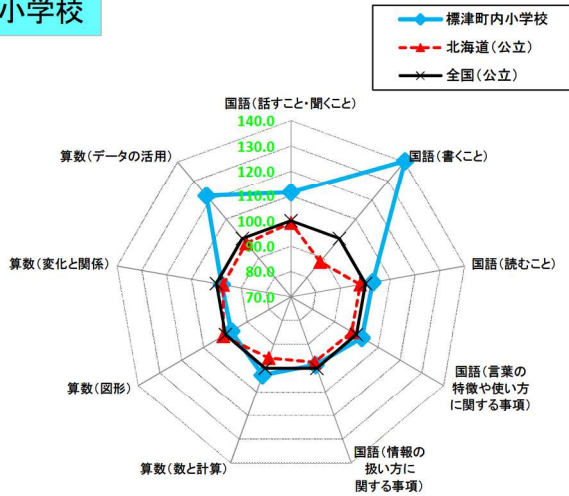
■ 標津町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:40人) (中学校数:2校、生徒数:34人)

【教科全体の状況】

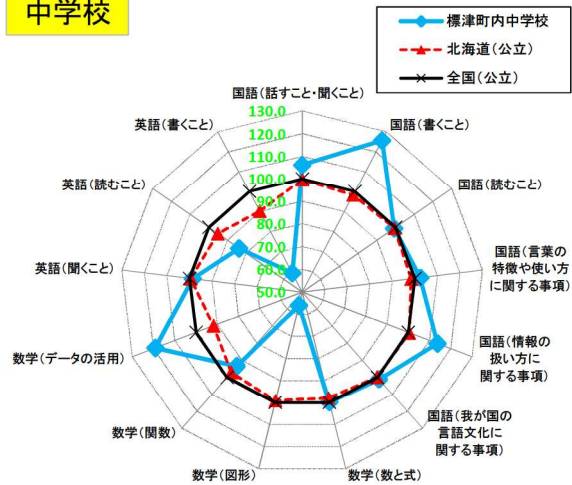
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	74
算数・数学	65	49
英語	-	40

小学校

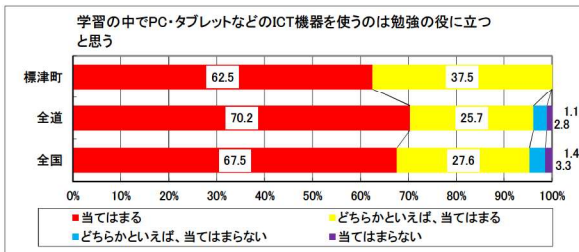
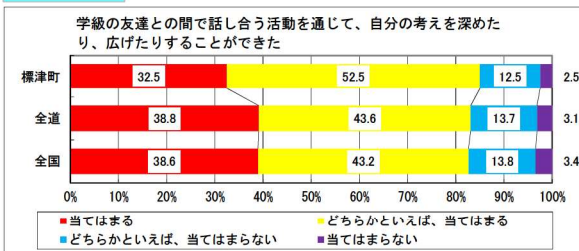


中学校

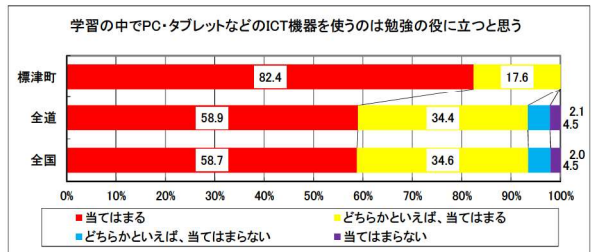
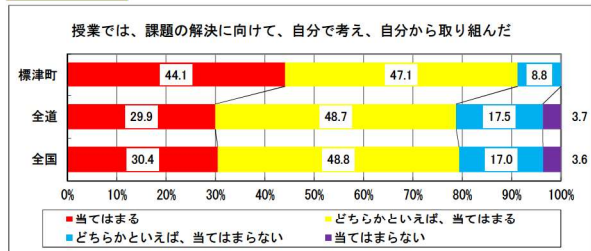


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

問題解決的な学習を中心に据えた「標津型学習スタイル」を推進し、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞く活動を充実させたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域及び算数の「データの活用」の領域で、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

標津・川北両地区の一貫教育推進協議会を中心とした異校種間及び同校種間で研修を実施し、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ、どちらかといえば役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

問題解決的な学習を中心に据えた「標津型学習スタイル」を推進し、主体的な「個別最適な学び」と対話的な「協働的な学び」の一体的な充実を図ったことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に  
関する事項」「情報の扱い方に  
関する事項」「我が国の言語文化に  
関する事項」及び数学の「データの活用」の領域で、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

標津・川北両地区の一貫教育推進協議会を中心とした異校種間及び同校種間で研修を実施し、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【標津町の学力向上策】

- ◎ ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る「標津型学習スタイル」の推進
- ◎ 標津・川北両地区の一貫教育推進協議会を中心とした異校種間及び同校種間における研修の充実
- ◎ 電子メディア依存による課題の解決に向けた研修会の開催など、学校と家庭が連携した対策の推進

【Webページ】



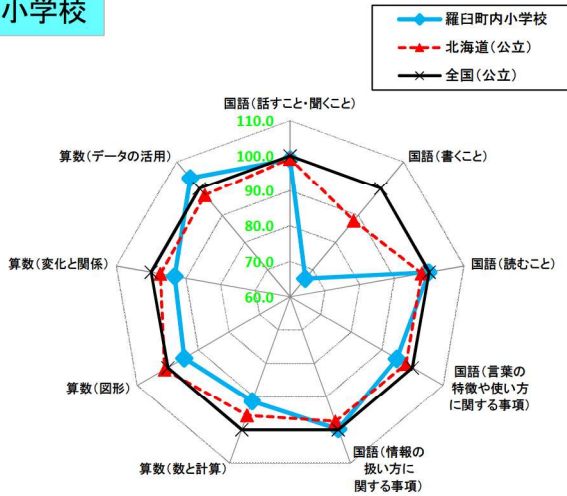
■羅臼町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：45人）（中学校数：1校、生徒数：31人）

【教科全体の状況】

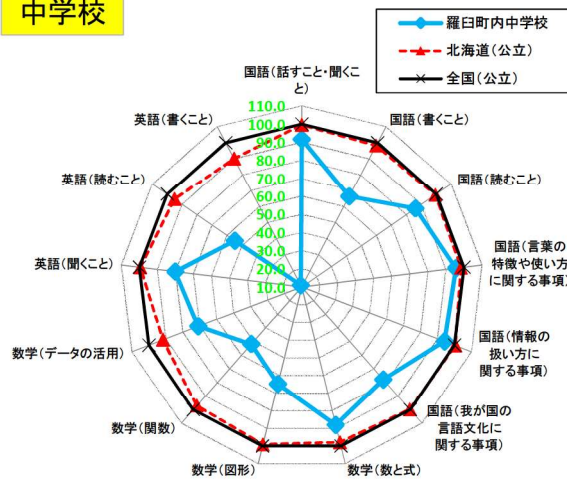
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	60
算数・数学	59	37
英語	-	27

小学校

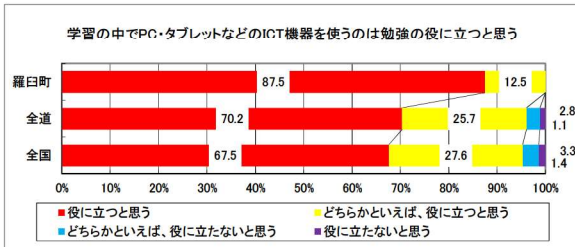
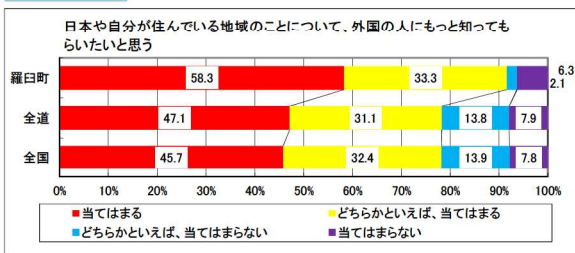


中学校

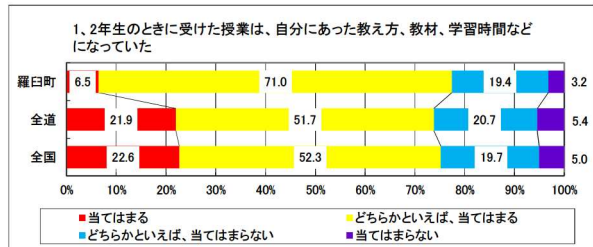
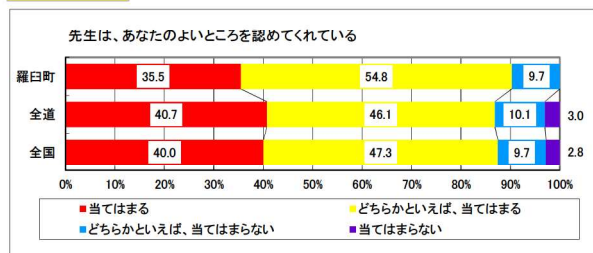


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

「地域おこし協力隊」を活用したイングリッシュフェスティバルなど、英語の授業以外にも児童が英語の触れる機会を設けたことにより、日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知りたいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が自分で調べる場面や教職員と児童及び児童同士がやり取りする場面や児童の心身の状況の把握にほぼ毎日1人1台端末を活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組をよく行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、1、2年生の時に受けた授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【羅臼町の学力向上策】

- ◎ 「羅臼町学力向上プラン」による確かな学力の定着を図る授業改善の実施
- ◎ 「幼小中高合同研修会」による幼・小・中・高で研究主題を統一し一貫して取り組む授業改善の実施
- ◎ ICTの特性を生かした授業の指導方法工夫改善に向けた研修会の実施

【Webページ】

